

# 彩遊祭 楽

三谷市民文化振興財団ニュース

## 表紙の言葉

～読み人知らず～

『六欲の草踏み分けて明通寺  
谷のひびきも御法(みのり)なるらん』

【五感や意識を通して、様々な欲望が日々の生活に生み出している。その欲から抜け出し、明通寺の谷の清らかな深流の響きを聞けば、仏の教えのようにささやいて聞こえ、心が洗われる】

【明通寺】

若狭を代表する真言宗の名刹。大同元年(806)、坂上田村麻呂によって創建された。鎌倉時代建立の本堂と三重塔はともに国宝に指定されている。

## 福井県立恐竜博物館



国内初の恐竜博物館が、平成12年7月にオープンした。恐竜の化石が壁に埋められた「ダイノストリート」を抜けると、30体を超える恐竜骨格が展示された「恐竜の世界」が目の前に広がる。対面スクリーンやジオラマ、実物骨格などを止めて見入ってしまうほどの迫力だ。その他、古生物や地球の歴史を復元模型や標本などで分かりやすく展示。恐竜グッズを販売するミュージアムショップもある。

<お問い合わせ先> 福井県立恐竜博物館  
〒911-8601 福井県勝山市村岡町寺尾51-11  
電話 0779-88-0001

## 財団法人 三谷市民文化振興財団

〒910-8510 福井県福井市豊島1-3-1 三谷ビル TEL0776-20-3188 FAX0776-25-3911

財団法人三谷市民文化振興財団は、ボランティア活動、スポーツ活動、市民文化活動の支援を目的として作られた財団です。毎年5月に助成団体を広く募集しています。この遊楽彩祭(毎年1回発行)は、県内で活躍する人やグループ、各地で企画されているイベントを紹介し、ボランティア活動、スポーツ活動、市民活動のネットワーク化、活性化の促進を目的としています。  
<http://www.mitene.or.jp/rm-zaidan/>

2000・12月発行

このニュースに関するお問い合わせは、TEL0776-33-7571 (株)コミネットまで

## 三谷市民文化振興財団の助成団体

様々な場面でイキイキと活動するグループを紹介します。



連絡先 Enjoy Summer 梅澤  
TEL 0776-25-7232

エンジョイサマーは、「夏休みをどう過ごしているのか分からない」という自閉症の子供をもつ保護者からの要望で、一九九九年に発足した。小学生から高校生までの自閉症や知的障害児を対象に、夏休みの期間に約八回の活動を行う。十五から二十名の子供たちが集まり、様々な遊びを通して、子供たちの社会参加を図る。ボール遊びやお絵かき、パソコンなど自由に遊ぶことができ、その中でも子供たちが一番興味をもつのがプール。思いっきり水を使えるプール遊びには子供たちも大満足だ。ボランティアや保護者だけでなく、自閉症の子供たちの兄弟も一緒に遊んで、お昼を一緒に食べたりと有意義な交流の場になっている。

「余暇に不安を感じる保護者が多く、親子ともにストレスが溜まりやすい。だから、夏休みを楽しんで過ごせるということが、一番大切。夏休み以外でも活動してほしいという要望が多く、ボランティアや会場の問題もあるが、活動できるようにしたい」と実行委員の梅澤さんは語る。

遊びを通して、子供たちの社会参加を目指す  
Enjoy Summer (福井市)



連絡先 福井県車椅子テニス協会事務局  
TEL 0776-51-4750

福井県車椅子テニス協会は、県内で行われた車椅子テニス講習会の参加者たちが、「自分達で何かできるのでは」と思い立ち、一九九六年に発足。県内各地から幅広い年齢層の障害者の人たちが集まり、土曜の夜と日曜の午後を福井県中小企業産業大学のコートで練習を行っている。「最初は大変だったが、一般のボランティアの人たちと交流もでき、とても楽しんでいる」と竹下さん。毎年、県内障害者に車椅子テニスを理解してもらおうと講習会を開いたり、小学生を対象にテニスのデモンストレーションを行うなど、車椅子テニス環境のバリアフリー化を進めている。

同協会では、北陸三県合同練習会を開催しており、一昨年の大会では三十人ほどだった参加選手が、去年は倍近くに増えた。「テニスをすることは、仲間と同じ事を楽しむという達成感が味わえて、励み、ストレス解消にもなる。それに、試合に勝てば自信もつく」とレベル向上を目指し、国際大会出場など県外大会出場にも積極的に取り組んでいる。

やる気を自信に変え、競技技術の向上を図る  
福井県車椅子テニス協会 (福井市)

CULTURAL PRESS

六欲の  
草踏み分けて明通寺  
谷のひびきも  
御法なるらん

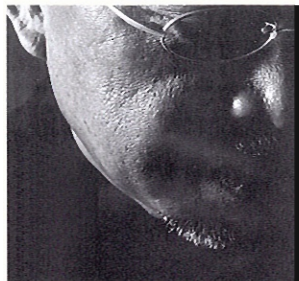


国宝・明通寺三重塔



**新収蔵品展 (特別展)**  
 前期1/4 (木) ~1/15 (月)  
 後期1/16 (火) ~1/28 (日)  
 敦賀市立博物館 (敦賀市相生町)  
 平成10年度以降に購入した日本画を中心とした展示会。復古大和絵派の祖として全国的に知られた冷泉為恭や田中訥言、土佐光貞。横嶺門四天王の一人谷口香嶺。円山四策派、明清画、土佐派の筆法を加味して、原派を築き上げた原在中などの繊細優美で格調高い世界を紹介する。  
 (問) 敦賀市立博物館 0770-25-7033

**ふくひニューイヤーコンサート2001**  
 1/8 (月)  
 福井市文化会館 (福井市春山)  
 福井市内で活動している音楽・芸術団体による合同コンサート。国内外で活躍する演奏家の高橋雅彦さんとグループ雅による華・琴演奏、西沢純子とエレガントストリングスアンサンブル、FCC女声合唱団、ヴォーチェ・アムレ、福井室内管弦楽団などのクラシック音楽や吹奏楽が披露される。  
 13:30~  
 一般1,000円、高校生以下無料  
 (問) 福井市文化会館  
 0776-20-5010



**[Debut] 小椋佳30周年記念コンサート**  
 1/13 (土)  
 福井フェニックスプラザ大ホール (福井市田原)  
 現在、舞台制作、音楽活動と多忙な日々を過ごしている、シンガーソングライター小椋佳。初のアルバム [Debut (デビュー)] 発表からデビュー30周年を記念し、11月3日から全国コンサートを開始した。心に残る名曲を作り続ける彼のやわらかな歌声に酔いたい。  
 19:00~  
 全席指定6,000円  
 (問) 福井新聞社事務局  
 0776-25-8114



**酒の器・展 [創作・酒の器による公展]**  
 1/19 (金) ~2/25 (日)  
 金津創作の森アートミュージアム (坂井郡金津町宮谷)  
 金津創作の森が全国公募により募集した、酒器・くい呑み等の展覧会。飲み手、使い手の暮らしに密着した、実用性の高い、おいしい「酒器」をテーマに、様々な素材・形の酒器を紹介する。その他、福井の新酒の利き酒会もある。期間中、観覧者の中から抽選で5名の方にくい呑みを進呈。  
 (問) (財)金津創作の森財団  
 0776-73-7800

**初笑い 桂文珍独演会**  
 1/28 (日)  
 ハートピア春江 (坂井郡春江町西太郎丸)  
 時代をキャッチする鋭敏なセンスと芸人としての幅広い活動を展開している桂文珍。一番弟子にあたる桂葉珍と桂珍念を連れての落語独演会を開催。落語の持つ古典の良さを残しつつ、現代の風潮も取り入れた桂文珍の見事な話芸をたっぷり堪能しよう。  
 15:00~  
 大人2,500円、高校生以下1,500円  
 (問) ハートピア春江 0776-51-8800



**九頭竜ゆきまつり2001**  
 2/10 (土)  
 九頭竜スキー場 (大野郡和泉村)  
 おまつり広場では、味の広場やゲーム大会、つきたてのお餅を食べられるもちつき大会が楽しめる。ステージアトラクションでは豪華景品が当たる大抽選会を開催。まつりの最後には、迫力満点の花火が雪原を照らし、幻想的な夜を体験できる。  
 (問) 九頭竜まつり実行委員会 和泉村役場企画課観光課 0779-78-2111



**ロンドン交響楽団**  
 2/11 (日)  
 ハーモニーホールふくい (福井市今市町)  
 次代を担うヴァイオリニスト、ニコライ・ズナイダーを迎え、巨匠ムスティスラフ・ロストロポフヴィチが指揮する「ロンドン交響楽団」の華麗豪華なオーケストラ・サウンド。曲目は、ベートーヴェン作曲のヴァイオリンコンチェルトに、チャイコフスキー作曲の交響曲第5番と期待高まる豪華版だ。  
 14:00~  
 S:15,000円、A:12,000円、  
 B:10,000円、C:8,000円、  
 小中高生半額  
 (問) ハーモニーホールふくい  
 0776-38-8288

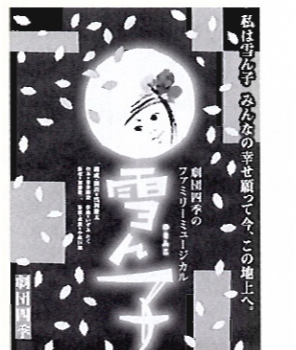
**小さな小さな展覧会 人体—その表現—**  
 2/24 (土) ~3/25 (日)  
 福井市美術館 (福井市下馬)  
 日常の生活をそのまま再現したものや理想的な偶像としてあらわしたもの、抜け殻のようにあらわしたものなど、さまざまなかたちで表現されてきた人体表現の多様性を検証する展覧会。  
 一般500円、大・高校生300円、  
 小中学生200円  
 (問) 福井市美術館 0776-33-2990



**お水送り**  
 3/2 (金)  
 神宮寺・鶴の瀧 (小浜市神宮寺・鶴の瀧)  
 若狭と奈良をつなぐ伝統行事で、13時から神宮寺で修二会の行法後、本堂前で大護摩を焚き、19時半過ぎに鶴の瀧まで一般客を含めた松明行列が進む。クライマ

ックスの送水神事では、10日かかって奈良に届くといわれる香水を清流に流し、水と炎が織り成す幽玄の世界を演出する。  
 (問) 小浜町商工観光課  
 0770-53-1111

**石川県立美術館所蔵品展**  
**[日本の美とかたち]**  
**—茶道美術を中心に—**  
 3/2 (金) ~3/25 (日)  
 福井県立美術館 (福井市文京)  
 石川県との文化交流の一環として行われる企画展。石川県立美術館の所蔵品の中から、墨文の「色絵梅花園平水指」(野々村仁清作)などの茶道具を中心に、古九谷、絵画、書など古美術品57点を展示する。  
 (問) 福井県立美術館 0776-25-0451



**劇団四季ファミリーミュージカル**  
**「雪の子」**  
 3/10 (土)  
 ハートピア春江 (坂井郡春江町西太郎丸)  
 江戸情緒と躍動感あふれるダンスが織り成す劇団四季のファミリーミュージカル。加藤歌二振り付けによるアクロバットから日本舞踊にまで及ぶ華麗なダンスは必見。雪の世界から江戸の町に舞い降りた「雪の子」ゆきは、首を幸せにしたいと願う。ゆきの願いは宙の心に届くのか?  
 18:30~  
 大人4,000円、中学生以下2,500円  
 (問) ハートピア春江 0776-51-8800



**野村萬斎 [狂言の現在]**  
 3/14 (水)  
 みくに文化未来館 (坂井郡三国町神明)  
 野村万作の長男であり、東京狂言界の若手ホープ野村萬斎が、主に初心者、若年層を対象に、身近に生きた芸能、芸術としての狂言を紹介する。野村萬斎の観客を交えての楽しいレクチャートーク、「佐渡狐」「清水」などの舞台を演じる。  
 19:00~  
 前売り4,000円 (当日4,500円)  
 (問) みくに文化未来館  
 0776-82-7200

**村治佳織のアランフェス**  
 3/15 (木)  
 ハーモニーホールふくい (福井市今市町)  
 人気・実力ともにゆるぎない地位を確立した若きギタリスト村治佳織。曲は彼女が作曲家ロドリゴへの想いをこめたアランフェス協奏曲で、スパニッシュ・サウンド満載のプログラムを用意したオーケストラアンサンブル金沢と共演する。  
 19:00~  
 S:4,000円、A:3,000円、B:2,000円、  
 小中高生半額  
 (問) ハーモニーホールふくい  
 0776-38-8288



**ござんせフェスティバル2001**  
**in きのこの森**  
 4/28 (土)  
 きのこの森 (大飯郡大飯町鹿野)  
 会場には大飯町の子供たちが手作りした燈のほりが、夜空を悠々と泳ぐ。飛行距離を競う紙ひこうき大会や魚のつかみどり、フリーマーケット、バザーなど様々なイベントが催される。雄大な自然に包まれて、家族でゆっくりと楽しもう。  
 (問) (財) 大飯ふるさと振興公社  
 0770-77-2811

**神と紙の祭り (岡太神社春季祭礼)**  
 5/3(木)~5/5(土)  
 和紙の里一円 (今立郡今立町栗田部)  
 1500年の歴史と伝統を誇る越前和紙の紙神「川上御前」を祀る岡太神社の春季祭礼。紙神が鷹奥丁番と呼ばれる若衆の担ぐ神輿によって「奥の院」から里宮に降臨され、ご神体を乗せた神輿が町中を練り歩く。夜にはちょうちんを掲げて歩く幻想的な神送りが行われる。  
 (問) 今立町商工観光課  
 0778-43-1111



**美浜・五木ひろしマラソン**  
 5/20 (日)  
 美浜町 (三方郡美浜町丹生)  
 美浜町出身で各賞町民である歌手の五木ひろしを招き、風光明媚な若狭国定公園の海岸線コースをさわやかな潮風を肌で感じながら楽しむマラソンだ。  
 (問) 美浜町商工観光課 美浜・五木ひろしマラソン事務局 0770-32-1111

**光の造形—チェコの現代ガラス彫刻展**  
 6/20 (水) ~8/17 (金)  
 金津創作の森アートミュージアム1 (坂井郡金津町宮谷)  
 個人の全く新しい発想による創造を目指した「ガラス彫刻」の先駆的存在ともいえるチェコの現代ガラス作家。世界をリードするチェコのガラス彫刻群から、現代ガラスの巨匠たちを含む多岐向の優れた作家34人を選定し、彼らの最新作70余点を展示する。  
 (問) (財)金津創作の森財団  
 0776-73-7800



**武生国際音楽祭2001**  
 7/10 (火) ~7/17 (火)  
 武生市文化センター (武生市高瀬)  
 北陸地方を代表する国際音楽祭。世界各国の音楽祭ディレクター、評論家、作曲家たちの推薦による、若い世代の作曲家たちが、武生のために書いた新作を初演する。幅広くまた奥行きのある演奏との出会いそしてふれあいの心弾むのイベントだ。  
 (問) 武生市文化センター  
 0778-23-5057



**●プロフィール**  
 ますなが みちお / 1933年、福井県生まれ。中学時代(山と出会い)、高校、大学と日本各地の山を踏破する。その後、福井の山を歩くと同時に、執筆活動を開始。『霧の谷』『日本海の見える山』『福井の山150』『霧の谷』などの著書がある。1995年福井県文化芸術賞、2000年福井県文化賞を受賞。

# 道なき道を分け入り、四季折々に変化する 福井の山々の姿を追いつづける 増永迪男 MICHIO MASUNAGA

「登山前にあれこれと空想してみても、実際に登ってみるとまったく想像もしなかった世界が広がる」と話すのは、登山家であり山岳エッセイストでもある増永迪男さん。福井の山をこよなく愛し、山の素顔、そこから見える四季折々の景色を紹介しつつ増永さんが山と出会ったのは、中学生の時。植物採集のために白山に登ったのがきっかけ。山に親しみを抱き、次第に山登りの魅力にとりつかれる。「道中の苦しさや、やがておもしろさに変わってくる。それが山登りなんだよ」と高校、大学と山岳部に所属し、休日のほとんどを山で過ごす。登山一色の日々を送る。当時、昭和20年代後半から30年代前半は、イギリスの登山隊がエベレストの初登頂に成功、日本人初の8000m級の山への登頂も成功し、日本のみならず世界各地で登山ブームが巻き起こった時代だった。

登山には2つある。自然を楽しむ旅としての登山。そしてもう一つが、数々の登山家達がチャレンジする自然を相手とするスポーツとしての登山。完璧で厳しい自然に立ち向かうため、些細なミスが命取りになることもあるが、そうした緊張感や登頂したときの充実感が登山家たちの心をとらえて離さない。増永さんも常に挑戦的な山登りに挑んできた一人だ。実家の酒造会社を継いでからは、時間を見つけて福井の山々を登り始める。「山に挑むというよりは、『山に分け入り』という気分」と語る増永さん。福井の山は、2000mにも達していないところが多い。訪れる人影もなく、ひっそりとした静けさが奥深く広がっているのが特徴だ。彼のスタイルは道なき道を進むこと。藪や谷をかき分け、沢をのぼる。もちろん、豊富な知識と経験があつてこそできることば言うまでもない。

「同じ山でも、季節、天候、時間によって見える景色は様々。月の光でうすらと輝く草花の美しさに感動したり、普段見られない動物と出くわしたり、新しい発見の連続です。家の裏山でもいいんです。自然のありのままの姿を見て、感じてみてほしい。一度として同じ姿をあらわさない、自然が織りなす景色は、増永さんを魅了してやまない。彼独自の道を歩みながら、福井の様々な姿を紹介しつつづけるだろう。」